

ROTARY CLUB OF

**KANAZAWA-NORTH**



**金沢北ロータリークラブ**

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・松魚亭

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：山岸与作 幹事：上田忠信

情報委員長：中村三次

1982・12月2日 第229号

## 個性について

三重大学教授 書家

藤田 菖 氏



一般に個性とは、己だけにある他の者にはないもの、といわれますが、これから言う個性とは、誰れでもが、共通に不変的に所有していて、その中でかつ己だけのものを意味します。

この意味における個性の第一は、感情であります。対象が同一であっても、人によって感受性が異なるということです。この感受性の相異によって、個性が異なるのです。例えば月を見ても、或る人は全

く無表情ですが、或る人はロマンを感じます。

第二は、感じた感情の中より、どれをとり出すかであります。同一の対象物でも、或る人は形の特色を、或る人は色の特色と、人によってとり出すものが異なります。

第三は、感じた感情の中より、一つとり出す際に、同じ物を取り出しても、その表現の方法が異なります。例えば同一の金魚を表現するにしても、或る人はそのまゝ全体の姿を写生し、或る人は特に目玉部分だけを強調した姿を表わし、或る人は尻尾部分だけを大写しにした姿を表わすなど、人によって表現の仕方がそれぞれ異なります。

第四は、表現する人間の問題であります。人間は一定のリズムによって活動しております。リズムは心臓の動きから発生するものでありますが、リズムによって外面に表われるものが相異し、個性に表われます。これを書についていうと、心臓の動き、即ちリズムによって、自分の意思と関係なく、書の形態が異って表われます。したがって書家は、書体を見る事によって、リズム即ち心臓の動きを察知し、場合によって、その人の健康を判断出来る事になります。

第五は、間のとり方です。息を吸って息をはく、これが間の基本であります。書でいえば、第一画を書いて第二画に移る時間的間隔、或は書の距離的配字間隔などに表われますが、この間のとり方によって、外部表われるものにも個性が表われます。

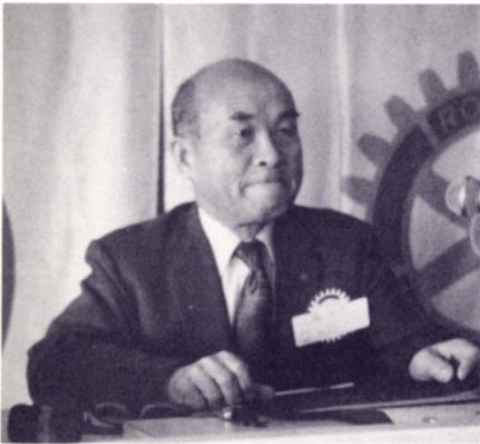
このような形で個性を認識することが、子供達の教育にとっても重要なことであり、又本当に自分の姿を理解し、発展させる上においても重要なことだと考えております。

—金沢北RC例会講話より— (文責 中村三次)

## 鞭聲粛々夜河を渡る〔続〕

◇ 館ガバナーの公式訪問を終って ◇

柴田 三郎



砺波 R C の創立は昭和30年9月で、多士済々、まさに名門クラブの名に恥ぬ存在である。そのメンバーには、香り高き文化人、神沢重治氏（元、銀行経営）があり、その名著を、私は幾たびか頂く光栄に浴している。

ロータリーを深く極めた菅野宜紀氏（歯科医）は、私が、ロータリーに最も情熱を燃やした頃の、ロータリーの良き戦友の一人であった。もう一人、筋金入りの実業人（砺波交通経営）としての館金吾氏の令名は、久しく存じてはいたが、直接の面識はなかったようである。ところが、地区ガバナーへの登場を知ったとき、私は一種の驚きを感じつ

つ、かねて待望の異色(?)なるガバナーの出現に、深い関心と期待を寄せたのであった。

“友、7月号は恒例によって全国の地区、新ガバナーのプロフィールを紹介したが、われらの新ガバナー館金吾氏に対する推薦の辞は、同門の神沢重治氏によって「ガバナーというと、都大路を輿でゆく大宮人を連想するが、館氏は、そういう優雅な貴人型ではなく、黒おどしの鎧に長太刀を佩いた鎌倉武士に似た風格の人である」と、館氏の生い立ち、経営人としての輝かしい実績、その人生行路、日常生活など、さすが流麗なる名筆をもって、簡にして明なる表現をされたのであった。かくして、そのタイトル“鞭聲粛々夜河を渡る。は、まさに、館ガバナーの風格ある進軍振りが遺憾なく偲ばれるものであった。

さて、57年10月28日、われらが、館ガバナーを迎える、いわゆる公式訪問の例会である。掲示板には、“ガバナー館金吾君。と紹介されてある。とっさに私は、君を殿に書き改めては……と、担当にアドバイスして書き直したところ、いつの間にか二転また君になって仕舞った。館ガバナーは殿を君に直せと、注文をつけられたので……と、幹事は私にささやいた。君は、ロータリーの慣例ではあるが、私は日常、君を使ったことはない。言い辛いからであり、なじめないからである。かねて君呼びに抵抗を感じていた私は、われらの指導者に対する殿は当然の敬称であると直感したからであった。しかし、館ガバナーは真実、謙虚なる苦勞人だけに、虚名を排したのであろう。もうひとつ、この野人ガバナーは、公式訪問の“公式。に内心、抵抗を感じておられるようすであった。さすが実戦の経営人であるなァと、私は感じ入った次第である。公式と言うから、訪問する人も、受けるものも、袴（かみしも）調になって、ガバナー用のデータが作られたりするのだ。ロータリーには、一事が万事、実を忘れた形式が余りにもはびこって、日本のロータリーに影をおとしているのであって、私には、痛恨久しいのである。

定刻、例会場に臨まれて一旦着席された館ガバナーは、フト立ちあがって、つかつかと、離れた私の席に来られ、膝を折って挨拶されたのである。さすがの私も面喰らって、恐縮を禁じ得なかった……一会員の私ごときに、しかも多くの目のある中を改めて……と。気取らず、こだわらぬ

豪快なる館さんに潜む、限りなき繊細なる言動、豊かなる人情味は、神沢さんの表現をかりるならば、“鉄火肌の宿将、の内面に深く生きづく、おおらかなる人柄である。私は、この館さんに、時の人、偉大なる土光敏夫大人を、フト感じて止まなかった。

ガバナーを囲んで始まったクラブ協議会では、いよいよ、館ガバナーの本領が発揮され、真実ある多くの訓え、アドバイスが展開されて、深い感銘と印象、すがすがしい余韻が、いつまでも馥郁と残るのであった。



会長、幹事との懇談…例会講演…クラブ協議会と相次ぐ館ガバナーの貴重な一連の語録の要点を想起すれば（文責筆者）。

- A. クラブ要覧“集いて図る心はひとつ、は、わが金沢北RCの顔であり、虚飾なき決算報告であり、意欲まんまん、次期への予算案であり、われらの最も心血を傾けているもののひとつである。が、クラブ創立は10年に満たず、まだまだ万全に程遠く未熟である。しかるに館ガバナーは、クラブの意欲を認められ、温い論評を与えてくださったのである。
- B. 会報発行は、クラブによって、月1回、隔週、毎週とあるが、当クラブは創立以来の方針を堅持して隔週刊行となっているが、館ガバナーは、その内容、構成ともに、適切なりとの評価であった。
- C. 当クラブの委員会構成は、全国的に特異なるものであり、創立以来、極めて合理的、機動的に成果をあげつつあるが、かつては、白眼視される向きもあった。しかるに、館ガバナーは率直に評価され、特に“修練委員会(他クラブのロータリー情報委員会)、の名称、目的に対し好評を下され、特に“修練、とは、なんと心憎い……とまで述懐された。
- D. ロータリーから、修練をはずせば単なる親睦団体となって仕舞うのである。ロータリーは人を作るところである。従って、ロータリーの例会は、“修練の道場であり、良き友を作る親睦のグラウンドである、と、私どもは定義している所以であるが、館ガバナーは、これに対し深く共感を示されつつも“ロータリーは生涯教育の場、と、自ら提唱された。まさに、深く共鳴を禁じ得ない雄大な名言である。
- E. 当クラブの親睦委員会の支出が、他の経費に比較して、極めて僅少である……と指摘された。さすが経営の達人である。当クラブでは、その性質上、受益者負担の建て前を採っていることを説明し、諒解されたが、一事が万事、その着眼点の鋭さには敬服を禁じ得ない。
- F. 当クラブ独自の委員会のひとつに“地域開発、があって、地元町会連合会などと緊密なる接触を保ち、積極的に地域の整備、発展に協力し、多くの成果をあげつつある。また、テリトリーの市民に向けて“オアシス、運動を展開し呼びかけている。更に、来たるクラブ創立10周年記念事業の目玉として、歴史的文化財、伝統工業などを網羅した仮称“金沢北郷土誌、の出版を早くから計画し進行しているのであるが、これら地域奉仕の快挙に対し、館ガバナーは深い共感と激励が述べられた。
- G. インターアクト、ローターアクトの結成については、歴代ガバナーに指摘されている宿題であるが“生み放し、の実情に鑑み、慎重を続けている当クラブの方針に対し、館ガバナーは、含みある理解を示された。

- H. 当クラブのテリトリー内に石川県武道館がある。館ガバナーは、これを活用し小・中学生を対象に、剣道、柔道の大会を主催し、青少年対策のひとつにしては如何か……と、強調され、帰途、わざわざ武道館を視察された。その熱意とご見識はさすがである。クラブでは、その後、早速、その意に副って始動が開始されているのであって、わがクラブの行動力は、まさに、これである。実現の暁には必ずや、館さんを来賓に迎え、欣んでもらえる事になるであろう。
- I. 当クラブ編集の、ロータリー文献「お、ロータリアン……職業奉仕とは。」の9,000部および、「お、ロータリアン……ロータリーとは。」の5,000部と、相次ぐ出版は少からぬ出費と苦勞の積み重ねであったが、当地区はもちろん、全国津々浦々のRCの人々多数に愛読、絶賛され、いわゆる洛陽の誌価を高め、広域奉仕となった。館ガバナーは、この快挙を採り上げて賛辞を贈ってくださった。「意義ある業績賞」に充分価するものである……との賞賛の声は、他の地区から多く聞えて来たが、当地区の機関には遂に黙視されて終った。ロータリーの思いやりを、強く痛感した次第である。
- J. 金沢北RCのテリトリーは、面積も広大、人口も多いらしいので、もっと積極的に会員をふやしては如何……と、館ガバナーは注文をつけられた。「農業地域が多く、農業人口で占められ、職種にも限界があるので……」と、私は補足説明しようとした途端、館ガバナーは、「会員増強を慫慂する本旨は、ロータリアンを殖やすことによって、ロータリー精神の地域、拡大を期するためであって、単にクラブを大きくする虚榮ではない……」と、明快なる解釈を下されたので、かねて、ロータリーのインフレを案じつつ「最少の会員、最大の奉仕。」をモットーにクラブの内容充実を意図して来た私ども、二の句がつけなかった。しかし、クラブ運営に適正会員数があるって、クラブが過大になれば「分蜂」という、ロータリーの栄光があることを想起しなければなるまい。わがクラブでは、その後、努力を重ねた結果、館ガバナーの期待に副って、近々、数名の新会員の誕生がある旨、この程、会長から中間報告があった。まさに快々。
- K. 豪快なる館ガバナーが、ただひとつ些細な字句について指摘された一事があった。当クラブの要覧、「集いて図る心はひとつ」の中に、「新入会員」という字句が随所に登場するのである。そのように統一されているからである。館ガバナーは「新入会員とあるのを新会員と改めているのではないかと、指摘された。この時、当クラブ修練委員長の沢田哲夫さんが発言し「当クラブでは新入会員で統一していますので、特に改める考えはありません」と、即座に明快に答弁された。私は、伸をとりもつ思いで「沢田さんは、かつての金沢地方裁判所々長で、字句については厳しいので……」と、助言すると、館ガバナーは諒承(?)OKの意志表示をなされたようである。ところが、こんどは沢田さん、間髪を入れず「ご指摘はごもっとも、今後は新会員に統一し改めることに致します」と、発言があつて展開、和やかに一件落着の名判決となった。些細な字句の問題のようではあるが、心の行き交う重大事であった……と、私は、この両雄の言動に頭のさがる思いを禁じ得なかった。館さんと沢田さんは同年輩の筈である。華麗なる枯淡の美とは、この事であろうか。
- L. 協議会の席に居並らぶ、われらのメンバーの中から、浅田豊久さんを発見された館ガバナーは「松任市における「I.G.F.」でのあなたの所論発表は、大変立派なものであった、忘れられません」と、あつた。豊久さんは、われらのホープであり、日本青年会議所の英智を代表する一人である。彼は内心、館ガバナーの慧眼に敬意を表し、自己研鑽と、館さんへの親近感を深めた

ことであろう。こうした事は、ガバナー公式訪問の貴重なる意義を高め、“われらのガバナー”の絆を強める、大きな収獲ではなからうか。

- M. 館ガバナーは、結びの挨拶の中で、今年度の国際ロータリー会長は、久しぶり登場の日本人、向笠広次氏である。最善の協力を切望する。また、こんどの国際大会には、精々参加し、われらの会長を声援されんことを。また、今後積極的に“世界社会奉仕”に努められん事を希う。と強調された。
- N. 協議会を終っての、お帰りぎわ、館さんは、「私は巨人の江川投手に好感を持てぬ」と、飾らぬ率直な感想を述べられた。私は思う、思いやりを忘れた思いあがった言動は、まさにロータリーの発想ではなく、カラぶり三振である……と。しかし、これは明治生まれの感傷であろうか。私は久しく巨人びいきの一人であったのだが江川事件以来……。ところが、若さを代表の一人昭和生まれの大村精二副会長（クラブ10周年の会長）は、われらと同感の、江川選手に対する強烈なる批判者であることを、近頃の会談で知った次第であるが、老若を問わず真理は常に一つなのである。

---

特定のガバナーについて、論評を書くのは、利巧なる人のすることではないらしい。大変、危険が伴うからである。ロータリーには、そんなわびしい一面が頑固に存在する。されど、面従腹背となったらロータリーの悲劇である。ところが、館ガバナーについては「雄気、堂々、誠実、謙虚で細心果敢なる大將軍」との声が相次いで私の耳に入って来るのである。

この稿は、その後、大村副会長（会長、幹事懇談会列席）と、館ガバナーの印象について語り合った時の話題に拠るものであって、大村副会長と私の共感による共同作である。

---

### 今週の花

吉山宥海  
(11月18日)

山 ち ゃ が ら  
白 椿



# 第457回例会

◆11月18日(木)晴 12:30~13:30 松魚亭



1. 講話  
ロータリー財団奨学生  
ジョン・ワレンタ君
2. 出席  
出席47名、欠席14名  
出席率77.05%  
ビジター23名
3. 来訪者(敬称略)  
金沢RC 真柄要助  
辻作次郎、市川弘善  
水上良夫、中里巧

- 金沢東RC 金子健吾、徳山一郎  
番匠鉄雄、東海林雅夫
- 金沢西RC 辻昭夫、永井正一郎  
北川正信、綾塚修司
- 金沢南RC 石坂弥重郎、大西武夫  
西岡末章、松島桃喜男、山田秀三  
辻弘、清水昭男、新家常男  
永富進、丹羽幹雄

4. 幹事報告 ○例会終了後、金沢5RC社会奉仕委員長会。  
○笠間恒次君退会。
5. ニコニコボックス  
○去る15日に県庁に於て本年度食品衛生功労者として表彰を受けました  
俵外代吉  
合計 3,000円 (累計 950,120円)
6. 今週のニュース  
○消費者米価 5.4%値上げ方針。大蔵省は逆ぎや解消のため、昭和58年度に米で5.4%、麦で15%程度の値上げ意向を表明。  
○所得税減税で合意。衆院減税問題特別小委員会は、来年度に地方税を含めて5・6千億円程度の減税を実施することで各党一致。  
○上越新幹線が開業。大宮・新潟間に上越新幹線が開業し、在来線より1時間40分短縮され、上野・新潟間は、2時間半で結ばれた。



## 11月クラブ日誌

- 11月1日(月) 韓国南光州RCと姉妹提携調印式  
光州市にて
- 11月3日(木) 韓国訪問団帰国
- 11月3日(木) 金沢5RC合同ゴルフ大会  
片山津G.Gにて
- 11月5日(金) 金沢5RC合同役員会  
金沢都ホテルにて
- 11月11日(木) 11月定例理事会 松魚亭にて
- 11月12日(金) 親睦委員会 松魚亭にて
- 11月18日(木) 社会奉仕委員会炉辺会合 松魚亭にて
- 11月23日(火) 10周年記念事業打合せ 松魚亭にて
- 11月26日(金) 金沢5RC合同役員会 白雲楼ホテルにて
- 11月29日(月) 次年度役員選考会 山岸会長宅にて

# 第458回例会

◆11月25日(木)晴 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話 韓国南光州RC訪問スライド上映  
飯野健志会員、石丸幹夫会員
2. 出席 出席44名、欠席16名、出席率73.33%  
ビジター23名
3. 来訪者 金沢RC 本多政一、高光一生  
(敬称略) 分校太平、坂尻哲夫、岡田虎二  
八重田敏夫、小松嘯一、古谷野晃  
織田義夫、柿埜昌彦、宮下明  
中田雄次郎  
金沢東RC 早崎浩司、中田淳造  
別川七造、彦田昭雄、石動隆信  
不破幸夫、堀政尋、松尾久義  
金沢西RC 新村利夫、秋常外喜雄  
金沢南RC 山田秀三

4. ニコニコボックス  
○会員増強が順調に運んで居ります。今一步の御協力をお願いします  
山岸与作  
○本日の講話を担当させていただきます。又新築移転10周年、創立75周年記念を感謝して 飯野健志  
○弊社社会に改組して35周年を記念して 増江泰  
○社会奉仕委員会炉辺会合に御多忙中御出席頂き盛況を得まして有難うございます 出島敬識  
○日産プリンス販売協力のゴルフコンペで優勝しましたので 西畑恒男  
○12月5日の私の演奏会の記事を北国新聞で大きく取り上げて頂いたので 鈴木透  
合計12,000円 (累計 962,120円)

5. 今週のニュース  
○中曽根政権が誕生。自民党総裁予備選で中曽根氏が圧勝し、同氏は自民党総裁に就任し、71代、45人目の首相となった。  
○円の急騰続く。週明けの東京外国為替市場では、円が前週末より2円90銭も急騰し、週末には1ドル250円15銭と半年前に回復。  
○年金制度改革試案。厚生省は、厚生年金と国民年金を基礎的年金に再編成、給付水準の引下げなどを骨子とする、改革試案を発表。